

三方五湖学習

三方五湖子どもラムサールクラブ

◇たたき網漁体験

三方五湖子どもラムサールクラブの令和元年度の野外活動は、三方湖の伝統漁法“たたき網漁”体験で締めくくられました。冬の味覚“フナ・コイ料理”、三方湖の冬の風物詩“たたき網漁”。何日も前からお天気を心配しながら、皆が心待ちにしていたプログラムでした。

船に乗って受ける風は冷たく、ワクワクする気持ちと緊張が入り混じる面持ちの子どもたち。漁師さんから竹竿を受け取り湖面をたたき瞬間はさらに緊張していましたが、湖漁師になりきり、たたき網体験を満喫した様子でした。



湖に出る前に、漁師さんから、湖の漁についてお話を聞きました。



親子で、2艘の船に分かれて乗り込み湖上へ出発

三方五湖 ニュースレター



No. 21

令和2年3月25日発行



子どもラムサールクラブ・たたき網漁体験

目次

ニホンウナギ研究報告会、石倉かごの設置 代かき濁水調査の結果 1
田んぼでフナ・コイの稚魚育成の取組 2
三方五湖学習、自然再生関連会議開催状況、 自然とめぐみTOPICS、三方五湖のなかまたち 3

自然再生関連会議等開催情報

- ◆自然護岸再生部会
 - ・令和2年1月21日…勉強会、部会会議
- ◆湖と田んぼのつながり再生部会
 - ・令和2年1月31日、3月2日…部会会議
- ◆外来生物等対策部会
 - ・令和2年1月29日…部会会議
- ◆環境に優しい農法部会
 - ・令和2年2月6日…部会会議
- ◆部会長・事務局合同会議
 - ・令和2年2月19日

※3月に予定されていた部会会議及び三方五湖自然再生協議会全体会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止・延期されました。

最新情報は
↓こちらから



三方五湖の自然とめぐみTOPICS

のぼりを立てて皆で取り組みます!



環境に優しい農法部会と湖と田んぼのつながり再生部会では、部会間の連携をはかりながら、水田からの濁り水の流出防止やフナ・コイの稚魚育成水田普及の取組を進めます。



問合せ先

- 福井県安全環境部自然環境課
〒910-8580 福井県福井市大手三丁目17番1号
TEL 0776-20-0305
- 美浜町住民環境課
〒919-1192 福井県三方郡美浜町郷市第25号25番地
TEL 0770-32-6703
- 若狭町環境安全課
〔三方庁舎〕
〒919-1333 福井県三方上中郡若狭町中央第1号1番地
TEL 0770-45-9126
- 若狭町歴史文化課縄文環境室
〔若狭三方縄文博物館内〕
〒919-1331 福井県三方上中郡若狭町鳥浜122-12-1
TEL 0770-45-2270

三方五湖のなかまたち

ツチガエル (アマガエル科)

・平野から山地の沼や河川、水路などの水辺に生息（年中、水が溜まっている場所に生息し、オタマジャクシで冬を越すこともある）。



- ・体長：
オス・37～46mm
メス・44～53mm
- ・地域によって呼び名が異なり、「いぼがえる」と呼ばれることもある。

このニュースレターは「令和元年度生物多様性保全推進交付金（環境省）」を使用しています。

研究報告会「ニホンウナギの隠れ場所」

自然護岸再生部会では、1月21日（火）の午後、海部健三先生（中央大学）をお招きし、「ニホンウナギの隠れ場所」と題して研究報告会を開催しました。

海部先生は、ニホンウナギが隠れ場所として利用する環境についての調査（発信器を用いた行動追跡）を久々子湖や実験池（鹿児島県）において実施されており、その研究内容をご紹介いただきました。

会場となった三方青年の家には、地元漁業協同組合、環境保全団体、研究者、関係行政皆さまが出席し、海部先生より興味深いお話を伺い、時間延長での熱心な質疑応答がありました。



海部先生から、ニホンウナギへの発信器装着の様子等を紹介いただきました。

石倉かご設置による湖岸の再生

自然護岸再生部会では、昨年度と今年度の2度に渡り、三方湖西岸（若狭町田井）において、石倉かごを設置しました。

石倉かごは、湖内の水生生物の生息環境の多様性を創出することを目的に、メッシュ状の袋に石（20～40cm程の大きさ）を詰めたものを湖岸から水中に沈めて設置するものです。石倉かごの導入により、湖岸に大小の石が配置されることになり、小さな魚やエビのなどが石の隙間を利用したり、波が護岸に打ちつけることを和らげる効果等が期待されています。



湖岸から、石倉かごを湖へ沈める作業の様子

石倉かご

代かき濁水調査の結果

三方五湖の水質が改善されない理由の一つとして、水田からの代かき濁水の流入影響が指摘されてきました。そこで環境に優しい農法部会では、代掻き濁水による湖水への影響調査や対策について取り組んできました。

杉本准教授（福井県立大）による研究によると、代かきのとき発生する濁り水には、湖水の富栄養化の原因となるN（窒素）とP（リン）が含まれていることが確認されました。これは、濁り水が田んぼから外に出ると、流れた栄養が三方五湖の富栄養化を招い

てアオコを発生させる恐れがあることを示しています。また、代かきの際に水をかけ流すと、田んぼの栄養と一緒に川に流れ、肥料を撒いても地力が低下する可能性があることもわかりました。

杉本准教授の研究では、田んぼを代かきしたのち、3日ほど静置しておくことで濁りの濃度は97%まで減少することが明らかになりました。つまり、代かきの際は水をかけ流さず3日間ほどは田に滞水させることで、湖に栄養塩類が流れる量はほぼなくなり、地力向上の期待ができる、ということになります。

このような研究成果をうけ、農法部会では、濁水防止ののほりを立てるなど、みんなで取り組む濁水防止を推進しています。

○ 2018年度の10ヶ所の水田の濁り水調査の結果

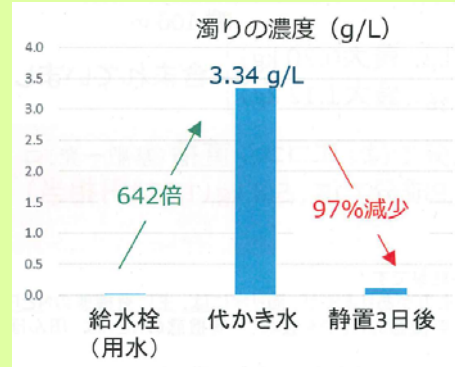
水深5cm

10アール(約1反)の田んぼに、水深5cmの濁り水があるとしたとき、

横 10m
縦 100m

N成分が平均 0.35 kg (最小0.09 kg、最大0.70 kg)
P成分が平均 0.23 kg (最小0.02 kg、最大1.12 kg) } 含まれていました。

これらの肥料分の量は、N成分では、エコシ直播(基肥一発、コシヒカリ用) 1.7 kg (440円相当)、P成分では、5.8 kg (1,524円相当)の量に相当します。



引用：環境に優しい農法部会作成チラシより

田んぼでフナ・コイの稚魚を育ててみませんか？

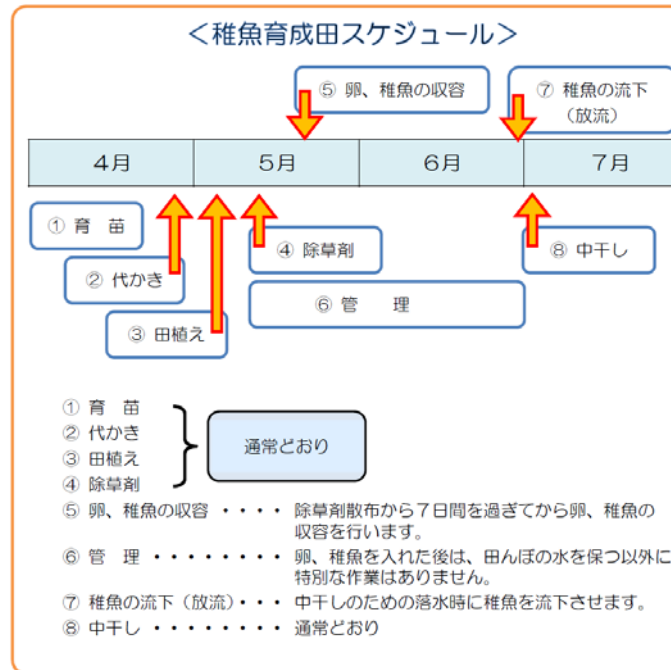


湖と田んぼのつながり再生 フナ・コイの水田養魚の取組

かつてから、三方五湖周辺の田んぼでは、春になるとフナやコイ、ナマズが田んぼに遡上し、産卵していました。しかし、近年では、田んぼー水路の高さに大きな差ができるなど、フナやコイなどが田んぼに遡上できない状況があります。

そこで、三方五湖周辺の田んぼでは、フナ、コイの生態をふまえ、水田におけるフナ・コイの稚魚育成（他地域からの種苗放流（フナ）に代わり、湖や川から採卵しふ化させた仔魚を水田で育て放流する）により、フナ・コイを増やす取組が進められています。

◆水田での稚魚育成のスケジュール



田んぼへ卵や稚魚を収容した後は、水位を保っていただく以外、何もすることはありません！



令和元年7月1日現在、三方五湖流域では、24か所・36,231㎡(概算)の水田において稚魚育成の取組が展開されています。

◆フナ・コイの育成水田大募集！！

フナ・コイの卵や稚魚を収容し、フナ・コイを育ててみたい方は、若狭町環境安全課まで、どうぞお気軽にお問い合わせください！

